

子どもの心の診療拠点病院事業
有識者会議 資料

国立成育医療研究センター

奥山 眞紀子

調査方法

- 平成20年9月から平成21年2月までの間に対象医療機関を受診した初診・再診（再診は9月のみ）の患者に、診察を担当した医師から研究への参加を依頼し、参加を募った。
- 平成22年1～3月までの間に同医療機関を初診した患者さんに同様の調査を行った。

対象

- 全国における子どもの心の問題に関する専門病院(N=16)を受診した患者およびその家族に対し、質問紙により調査する。

宮城県こども総合センター	国立成育医療センター	あいち小児保健医療総合センター	香川小児病院
国立国際医療センター国府台病院	神奈川県立こども医療センター	三重県立小児心療センター あすなろ学園	医療法人 翠星会 松田病院
埼玉県立小児医療センター	静岡県立こども病院	大阪府立精神医療センター 松心園	国立病院機構鳥取医療センター
東京都立梅ヶ丘病院	信州大学医学部附属病院	神戸大学医学部附属病院	肥前精神医療センター

H21年度調査結果図

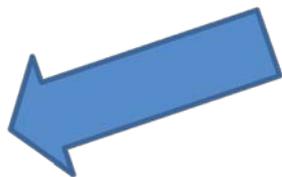


心の問題

他人との関わり
問題行動
発達の遅れ

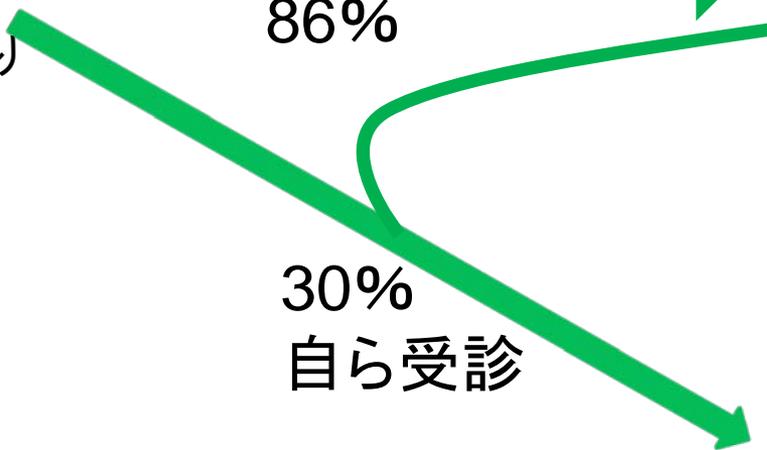
発症：平均5歳

68%がどこに
相談してよいか
“困っている”



86%

30%
自ら受診



他の機関を
受診・相談



医療機関
教育相談所
児童相談所
保健所



子どもの心
の専門病院



・診療への
満足度高
・生活困難
度改善



平均2.4年



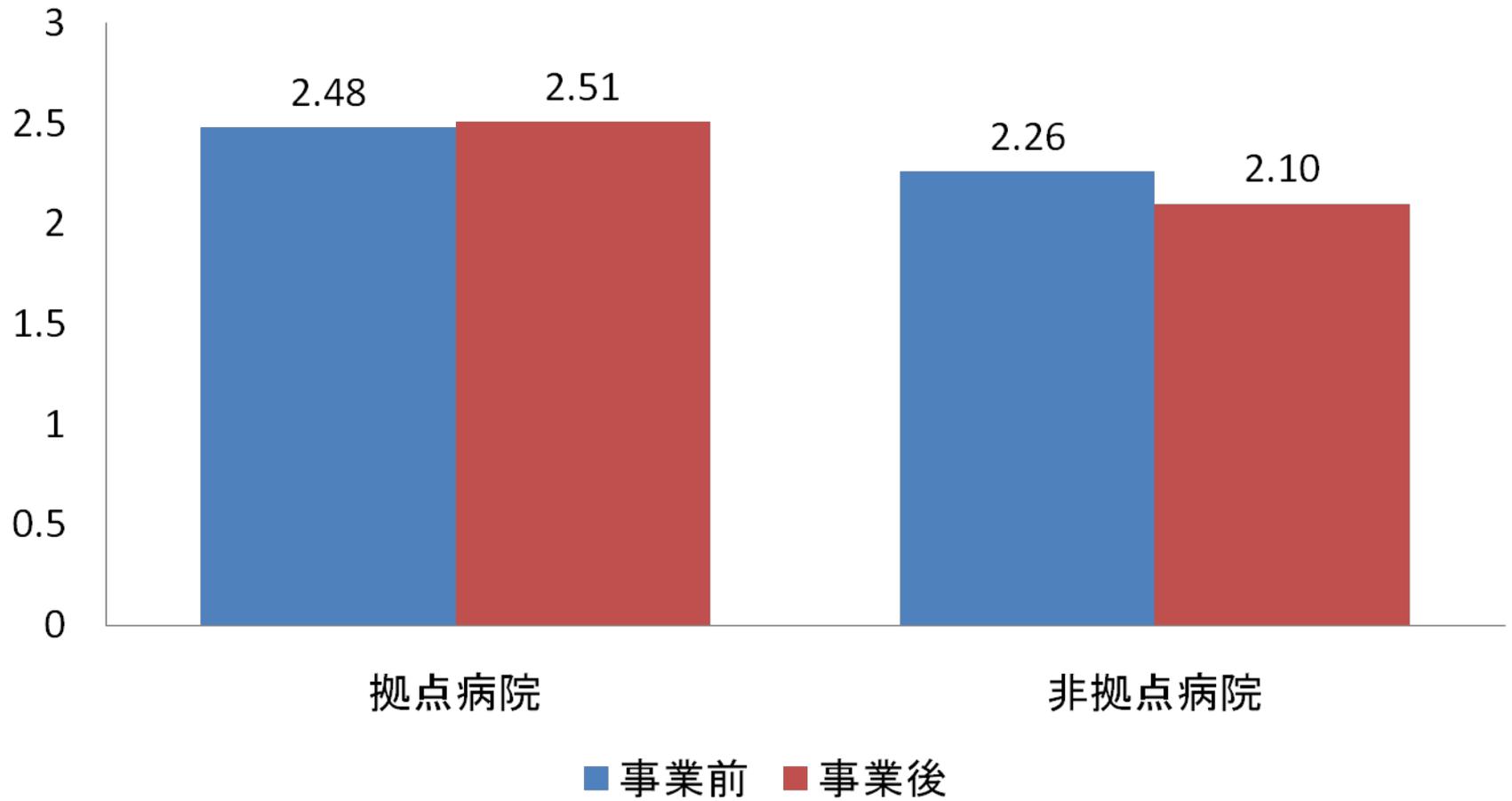
子どもの心の診療拠点病院事業評価

- 子どもの心の診療が円滑に行われることを目的に展開されている「子どもの心の診療拠点病院機構推進事業」の中間評価を行う。
- 拠点病院となった専門病院(N=8)とそうでない専門病院(N=8)において、事業の実施前(平成20年9月～平成21年3月、N=4,323)および実施後(平成22年1～3月、N=433)における①専門病院受診までの期間、②どこに相談すればよいかどの程度困ったか、について比較する。

今回の分析概要

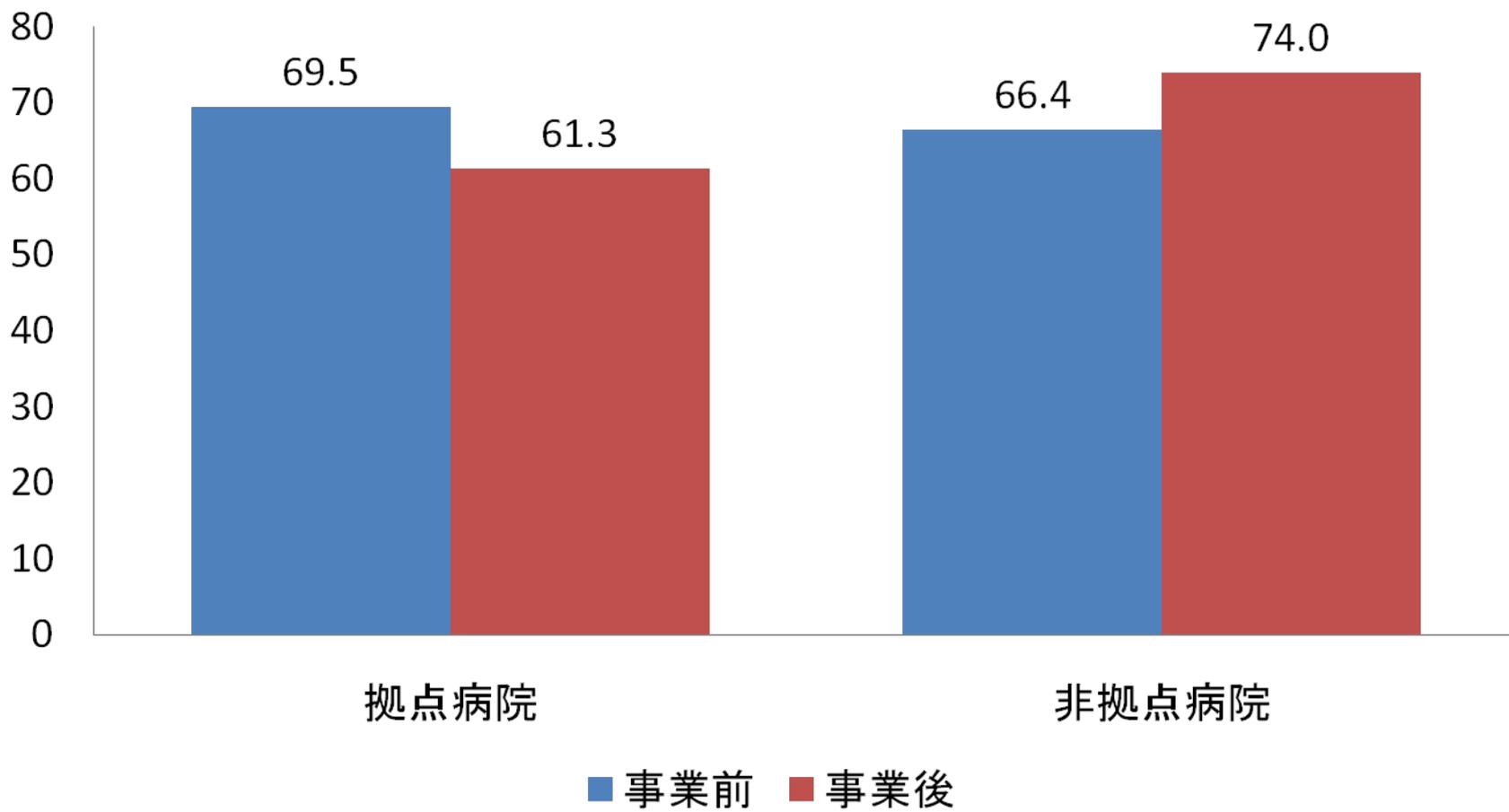
- 子どもの心の診療が円滑に行われることを目的に展開されている「子どもの心の診療拠点病院機構推進事業」の中間評価を行う。
- 拠点病院となった専門病院(N=8)とそうでない専門病院(N=8)において、事業の実施前(平成20年9月～平成21年3月、N=4,323)および実施後(平成22年1～3月、N=433)における①専門病院受診までの期間、②どこに相談すればよいかどの程度困ったか、について比較する。

専門病院受診までの期間 (N=4,650)



交互作用項目のp値=0.506

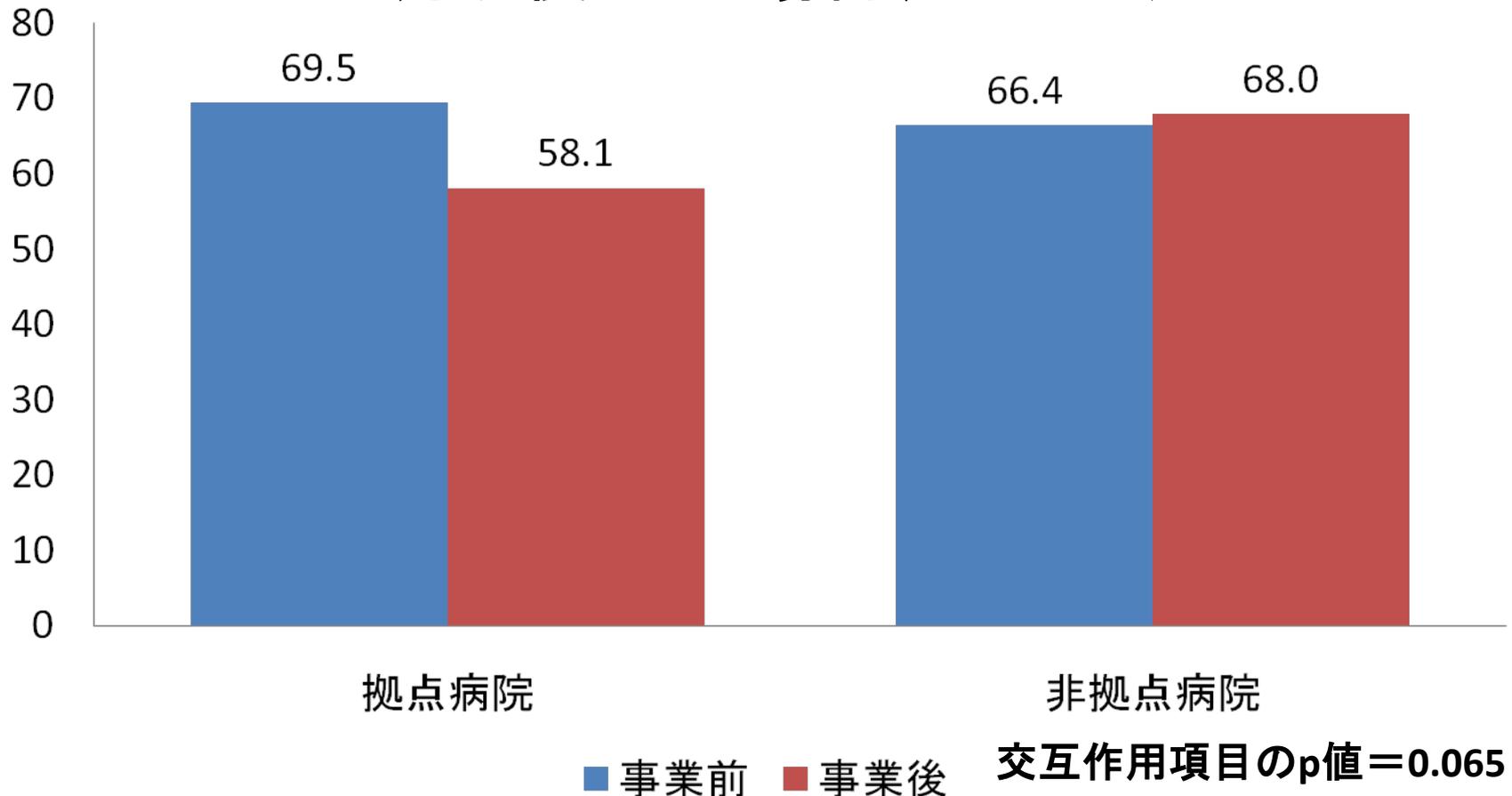
症状に気付いた時にどこに相談して いいか困った割合 (N=4,650)



交互作用項目のp値=0.001

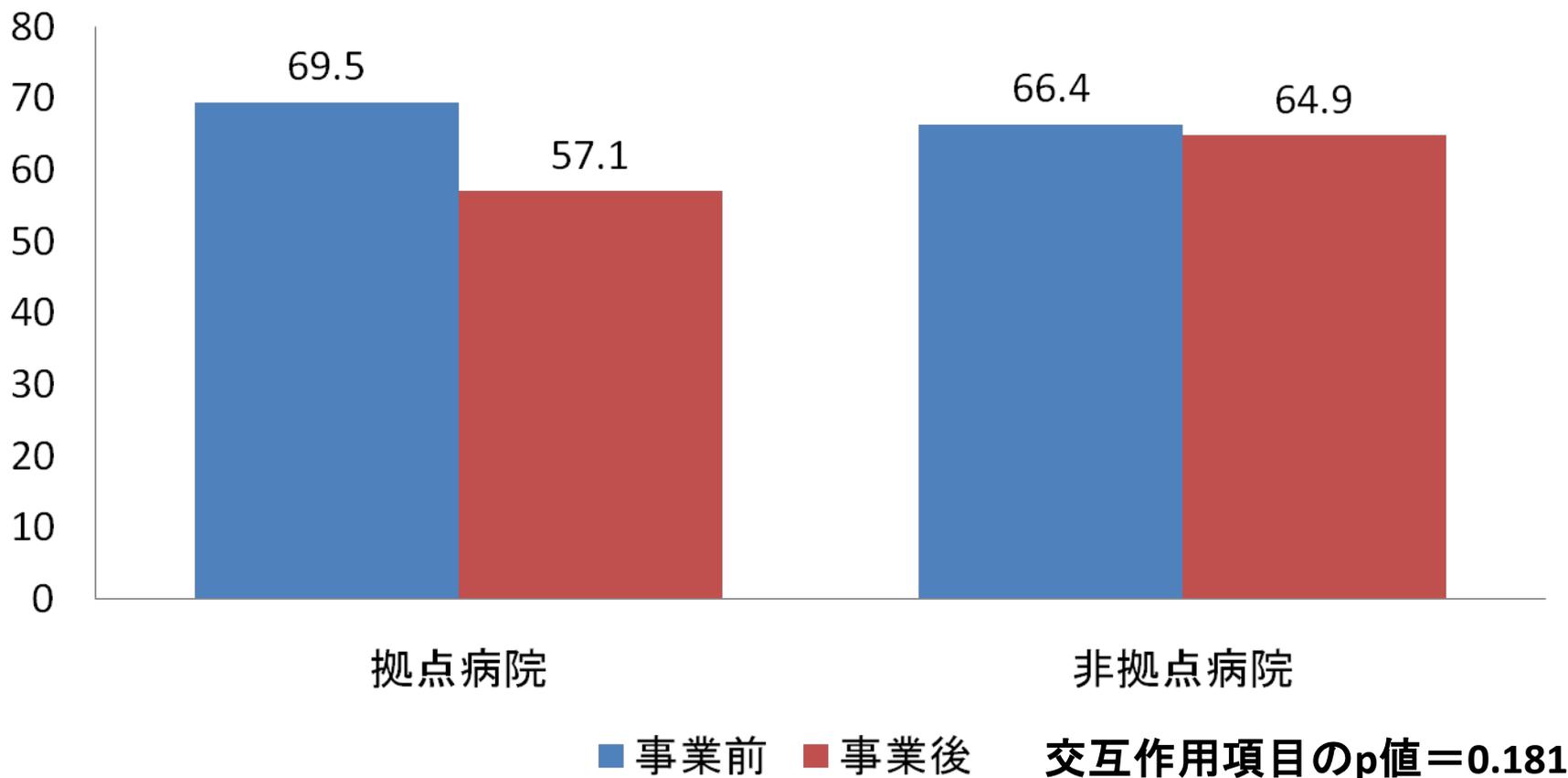
症状に気付いた時にどこに相談していいか困った割合

(事業後のサンプルを症状に気付いた時期を2008年10月以後とした場合、N=4413)

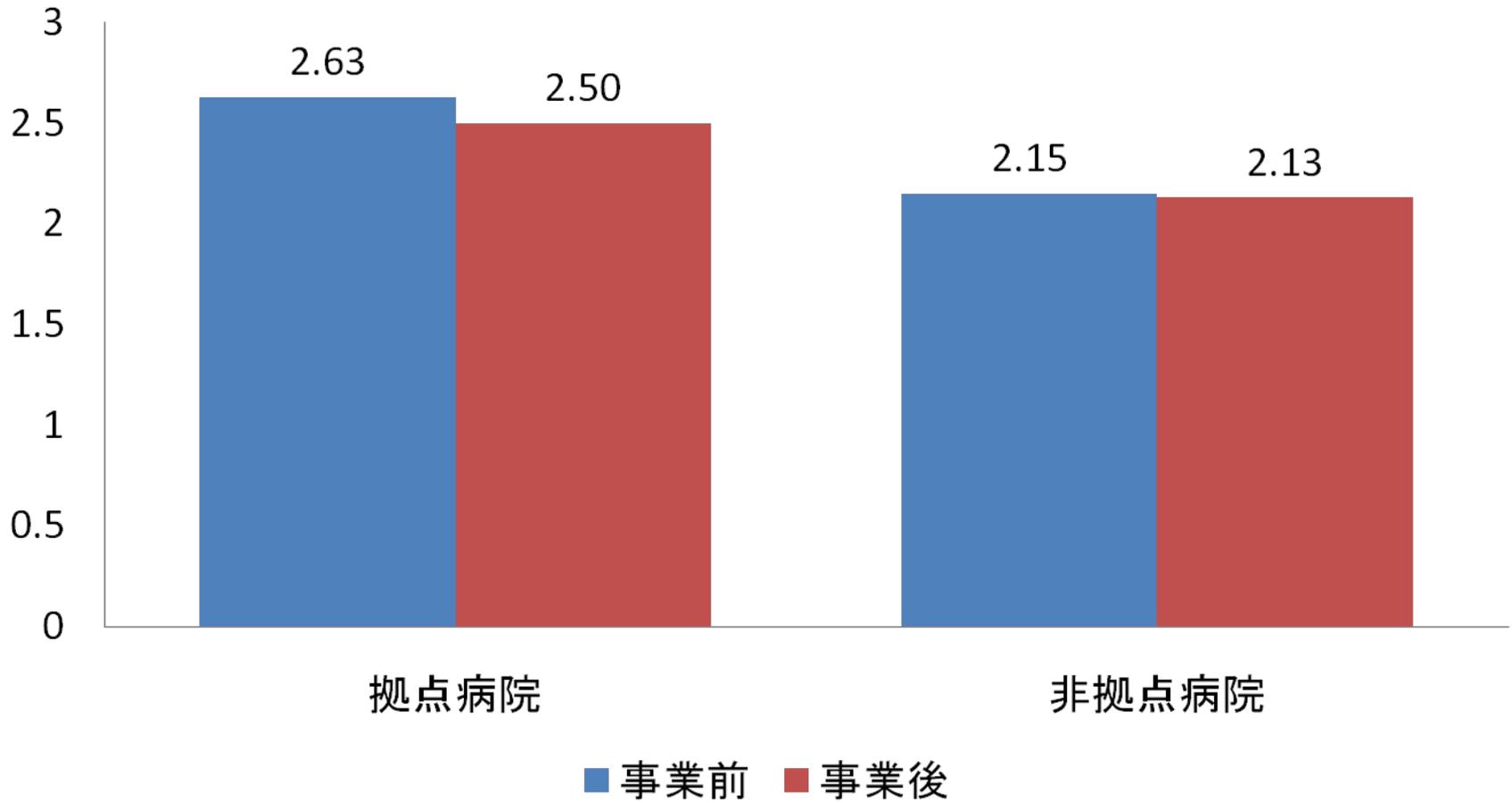


症状に気付いた時にどこに相談していいか困った割合

(事業後のサンプルを症状に気付いた時期を2009年4月以後とした場合、N=4367)

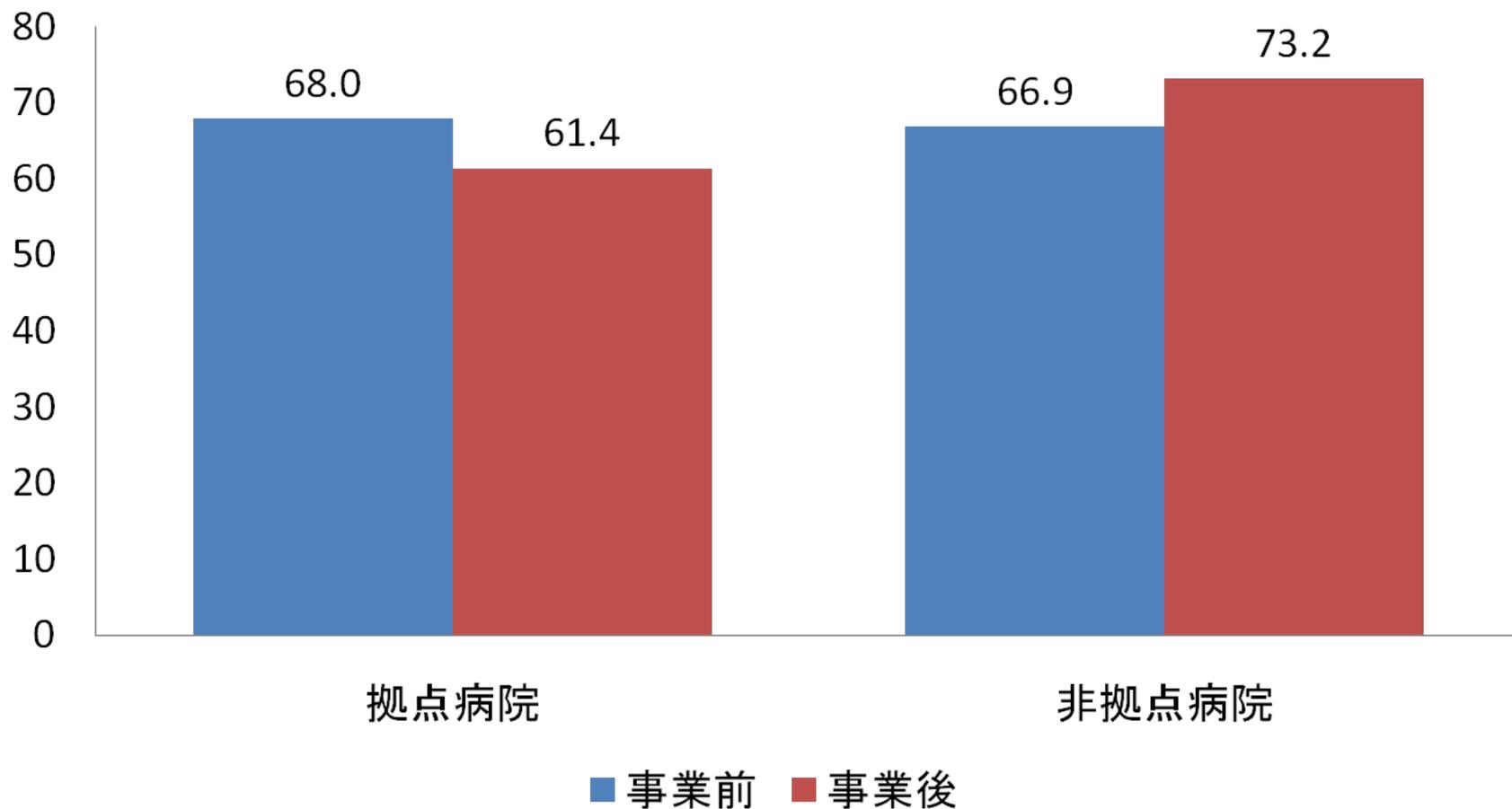


専門病院受診までの期間 (初診のみ、N=857)



交互作用項目のp値=0.771

症状に気付いた時にどこに相談して いか困った割合（初診のみ、N=857）



交互作用項目のp値=0.067

結論

- 子どもの心の拠点事業は、症状に気付いてから専門機関を受診するまでの期間を短くする効果はなかった。
- しかし、症状に気付いた時にどこに相談してよいか困っている人の割合は有意に低下させていた。
- 子どもの心の拠点事業は、症状に気付いてからの円滑な相談を促している可能性が示唆された。

自閉症スペクトラム障害における 専門病院診療までの経緯に 与える要因についての解析

背景

- 自閉症スペクトラム障害 (ASD) は早期診断が重要。
- そのためには、症状に気付いてからより短い期間のうちに子どものこころの専門病院を受診することが望ましい。
- どんな要因がその期間に影響しているのだろうか？

方法

- 平成20年9月から平成21年2月までの間に受診した初診・再診（再診は9月のみ）の患者に、診察を担当した医師から研究への参加を依頼し、参加を募った。
- 全参加者は4323名（回答率34%）。
- そのうち、患者による「医師の診断名」についての報告が自閉症、自閉症スペクトラム障害、広汎性発達障害、アスペルガー症候群であった参加者のみ対象とした（N=1513）。

結果

68%がどこに
相談してよいか
“困っている”



91%



他の機関を
受診・相談



医療機関
教育相談所
児童相談所
保健所

54%: 紹介なし

9%
自ら受診

46%: 紹介



子どもの心
の専門病院

心の問題

他人との関わり
問題行動
発達の遅れ

発症: 平均4.7歳

平均2.9年



症状に気付いてから専門病院受診までの時間と関連する項目 (ordered logistic regression)

- 年齢(小さいほど長い)
- 父親と同居(するほど短い)
- 年上のきょうだいとの同居(するほど短い)
- 年下のきょうだいとの同居(するほど長い)
- 発達の遅れ(あるほど短い)
- 他人との関わりの問題(あるほど長い)
- 不登校(あるほど長い)
- 相談困難感(あるほど長い)
- 他機関を通じて、とくに紹介なしで長い(最も高いオッズ比)
- 予約の待ち時間が長い(ほど長い)

症状に気付いてから専門病院受診までの時間と関連しない項目 (ordered logistic regression)

- 性別
- 母親・父親の学歴
- 年収
- 母、祖父母との同居
- ASDの家族歴
- こだわり、行動の問題
- 生活困難度

結論

- ASDの場合、受診までの経緯として、症状に気付いたときにどこに相談してよいかわからず、近くの医療機関等に相談したが納得せず、紹介なしで専門病院を受診している場合に受診までの期間が長くなっていることが分かった。
- どのような症状の場合に専門機関を受診するよう紹介すべきか、についてのガイドラインを作成し周知する必要がある。
- また、ASDの早期の気づきはまだ低い可能性がある。健診等での早期発見の取り組みが必要。